

○矢倉 紀子 広江 かおり

(鳥取大学医療技術短期大学部看護学科)

【はじめに】 従来、日本におけるトイレット・レーニングは児の成熟過程を無視したもので早すぎる傾向にあった。しかし、そのことによる弊害が指摘され、成熟過程にあわせるよう指導が広く行なわれてきたために、近年ではその指導効果と紙おむつの登場や、核家族化による「しつけ」の親から子への伝承的な面が減少するなど育児環境の変化と相俟って、従来とはことなるトイレット・レーニング上の問題が生じてきている。そこで今回、三歳児の排便トラブルをとりあげ、トイレット・トレーニングとの関連性を分析したので報告する。

【対象と方法】 対象は鳥取県米子市において、平成3年度に実施された三歳児健康審査の受診者男児513名、女児563名の1076名である。方法は対象者の保護者に対して、事前に調査用紙を郵送し、健診当日会場で回収(回収率68.5%)した。

【結果】 1 排便トラブルの出現状況

トイレまたはおまるで排便することに強く抵抗を示す児を排便トラブル群として、その出現率をみると男児16.0%、女児8.8%と男児の方が有意( $P < 0.01$ )にその出現率が高かった。また、そのトラブルの内容は、物陰に隠れてするが一番多く41.0%、次いで強く誘えばなんとかできる31.3%であり、立位、腹臥位でないときできない者も9.7%いた(表1、表2)。

2 排便トラブルに関連する要因

(1)しつけ開始時期：排便のしつけ開始時期別のトラブル出現率は、13~18か月に開始したものが最も低く、次いで12か月以前、19~24か月であり、25か月以降はいずれの群とも有意( $P < 0.005$ )に高くなっていた(図1)。(2)しつけ方法：排泄のしつけ方法別のトラブル出現率は、排尿から先に開始する群が最も高く22.1%、次いで同時7.1%で、排便から先にする群には全くみられなかった。排尿から先に開始する群はいずれの群とも有意差( $P < 0.005$ )が認められた(図2)。(3)トイレの様式：トイレの様式別のトラブル出現率は和式17.2%と最も高く、次いで両方13.0%、洋式9.1%で和式との間に有意差( $P < 0.005$ )が認められた(図3)。(4)おまる使用状況：トレーニングの段階でのおまるの使用率を排便トラブルの有無群で比較すると、トラブル群の使用率が有意に低かった。また、使用群に限って使用開始平均月齢を比較すると、トラブル群は $20.7 \pm 6.7$ 、トラブル無群 $18.9 \pm 6.1$ とトラブル群の使用開始月齢が遅くなっていた(表3)。(5)使用おむつの種類：紙おむつのトラブル出現率が最も高く16.4%、併用12.3%、布7.0%と紙群の出現率が高い傾向にあった(図4)。(6)排泄失敗時の母親の気持：トレーニングの経過中に児が排泄を失敗したときの母親の感情では、「不安になった」「あせった」がトラブル無群に比較してトラブル群が有意に高くなっていた(表4)。

【考察】 児になるべく抵抗のないかたちでトイレ・トレーニングを進めていくには、開始時期や方法を考慮する必要がある。時期は自我の発達がめざましくなる二歳頃までに開始するのが児の抵抗が少なくスムーズに進むと考える。本調査でも25か月以降群にトラブルが多く、このことを裏づけるものである。方法において、排便から先にしつけた群のトラブルが少なかったのは、排便は早期から回数が減少し、腹圧を加えたり、いきんだりの反射的協調運動を伴うなど排便リズムや児の便意を把握しやすいために母親の排便誘導と児の便意とが合致しやすく、排尿に比べて容易にトレーニングを進めることができるからである。しかし、排便から先に開始しているものが非常に少なく、これらの点が今後の育児指導の一つのポイントである。トイレの様式、おまるの使用状況、おむつの種類によってもトラブル発生に差を認めたが、これは児の排便誘導を適切な時期に適切な環境が準備できたか否かに関わる項目であるためにこのような結果が出たものと思われる。また、トレーニングにあたってはしつける側の否定的な態度が有害であることは明らかであるが、特に自信のなさともいえる「不安」

「あせり」が最もマイナスに働くことが明らかとなった。

表3 排便トラブル有無別おまる使用状況

	トラブル群	トラブル無群
おまる使用率	72.0	80.6
おまる使用月齢	20.7±6.7	18.9±6.1

++ P<0.05

表4 排便失敗時の母の気持(複数回答) %

母親の気持	トラブル群	トラブル無群
腹がたつた	8.5	14.0
あせった	13.1++	6.0
不安	8.5*	4.6
無視した	3.1	1.0
仕方がない	70.8	76.6
いやな気持になったことはない	9.2	9.8

++P<0.05 \*P<0.01

表1 排便トラブルの出現率 (%)

全体 n=1072	男 n=508	女 n=566
134 (12.5)	85 (16.0)	49 (8.8)

\* P<0.01

表2 排便トラブルの内容 (複数回答)

内容	人数 n=134	(%)
物陰に隠れてする	55	(41.0)
誘えばなんとかできる	42	(31.3)
誘いかけに激しく抵抗する	28	(20.9)
立位、腹臥位でするきない	13	(9.7)
途中で中止し、以後2~3日しない	6	(4.5)
不明	9	(6.7)

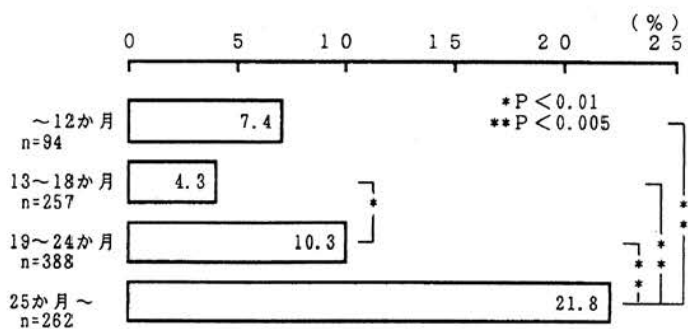


図1 排便しつけ開始時期と排便トラブル発生率

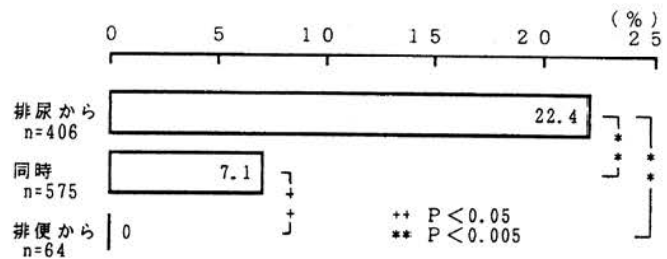


図2 排便のしつけ方法別排便トラブル出現率

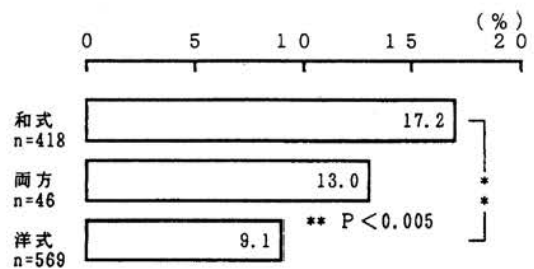


図3 トイレの様式と排便トラブル出現率

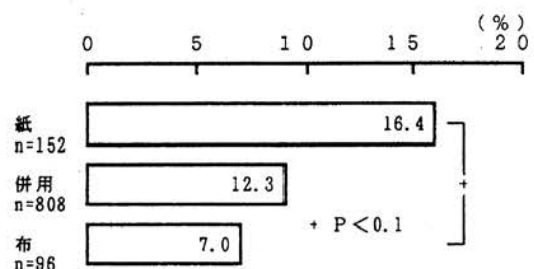


図4 使用おむつの種類と排便トラブル出現率